

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成27年 1月29日更新

事務事業名		合志音頭制作普及事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	4 みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	政策部
	施策	14 市民参画によるまちづくりの推進				所属課	商工振興課
	基本事業	42 地域づくり(まちづくり)活動機会の確保				所属班	商工振興班
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果
	一般	7	1	2	11524		⑤
終了、開始年度		☐ 25年度で終了 ☐ 25年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度
						(開始年度)	(年度)
						(22 ~ 30)	(年度)
						コスト削減優先度評価結果: ⑨	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	平成22年度に合志市民の一体感を高める為、合志市音頭を制作し、市外へも広く合志市のPRを行うため歌詞の公募を実施した。制作後は多くの市民が音頭に触れる機会を作る為、自治会や学校等にCDを配付し、普及活動に努めている。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	各種団体より振付講師の派遣依頼があった際に、市から講師へ依頼し、講習会終了後に講師へ費用弁償を支払う。
【主な予算費目】	費用弁償
【意見や要望】	市民の方から振付のDVDはないのでしょうかとの問い合わせが数多く寄せられている。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)		26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
振付講習会への講師派遣、合志市夏祭りでの総踊りの実施		26年度も引き続き前年同様の活動を展開していく。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ア 音頭振付講師派遣回数(のべ回数)	回	講師派遣時の費用弁償の増
⇒イ		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
市民	⇒ア 人口	人
⇒イ		
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
交流を深め一体感を高める。	⇒ア 小中学校や各地区等で音頭を使用した件数	件
⇒イ		
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
成果指標は、市民の参加が多い小中学校行事や夏祭り等での使用回数を設定。目標値については、各地区で行われる夏祭りの回数をベースに設定。		全体計画
		～30年度
		2,479

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	23年度 実績(決算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	28年度 見込	29年度 見込
① 活動指標		ア イ	回		5	9	5	5	5	5	5	5
② 対象指標		ア イ	人		56,638	57,501	56,693	58,237	58,900	59,500	60,100	60,700
③ 成果指標		ア イ	件		8	8	20	29	30	30	30	30
投資 入費 量	事業 費 内 訳	財 源	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円	1,913			2	1	1	1	1
			繰入金	千円								
			一般財源	千円	182	20	22	20	32	33	33	33
			(A) 事業費計	千円	2,095	20	22	22	33	34	34	34
			(A)のうち指定経費	千円	114	0	0	0	0	0	0	0
			(A)のうち時間外、特勤	千円	47	0	0	0	0	0	0	0
	人 件 費		正規職員従事人数	人	4	1	1	1	1	1	1	1
			延べ業務時間	時間	319	8	20	8	20	20	20	20
			(B)人件費計	千円	1,288	32	81	31	81	81	81	81
	トータルコスト(A)+(B)				千円	3,383	52	103	53	114	115	115

事務事業名	合志音頭制作普及事業	所属部	政策部	所属課	商工振興課
-------	------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度的事後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 各地で音頭の練習、実施をしていただいた。 ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 音頭が完成し、自治会等へ普及を行っていくため達成の見込みあり。 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 今後も継続して普及活動を行うことで、成果向上の余地はある。 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 音頭制作に関しては類似事業はないが、普及活動については、軽スポーツの普及や生涯学習の場を活用することは可能である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 予算は、振付講師派遣時の講師の費用弁償のみであるため削減の余地はない。 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 普及活動のみの人件費であるため削減の余地はない。 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 将来にわたって市民に広く普及し、継承していくものであり、公平・公正である。 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 合志音頭は市のシンボルであり、行政が制作し普及を行うことは役割分担として適正である。 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

当初のスケジュールどおり進んでおり、反省点は特になし。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）